

# 富士川

町の人口  
(上段7月1日・下段8月1日現在)

総数	15,224人
男	7,520人
女	7,704人
世帯数	3,448世帯
面積	31.09Km <sup>2</sup>

印刷/望月印刷所 T00304

7・8月号 昭和45年8月20日 No. 121 富士川町役場発行  
富士川町岩淵121番地  
電話 1111

## 三町合併

### 今後の課題として

### さらに検討

中川町長語る



町政運営につきましては、町民各位のご協力をいただき円満に進捗しております。

本年は、去る六月一日町制七十周年記念式を挙行（本紙六月号掲載）し、あわせて富士川駅改築完工式を行ないましたが、町内法人一般篤志者のご協力を得て、近代的駅舎が完成しこれを契機に、「富士川」に改称実現できましたことは、町民皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。

さて、庵原三町の合併問題であります。昨年六月合併事務局が設置され、九月には庵原地区合併研究協議会が発足し、三町の現況についての実態調査と合併条件の

検討が進められました。一方、庵原地区将来の発展性についての構想を財団法人国土計画協会に委託して当該地区開発の方向を示すなど、今日まで大半の研究協議が進み、明年四月一日新市誕生を目標に研究を重ねてまいりました。この間、昨年十二月には、三町にそれぞれ推進協議会が設けられ、さらに、蒲原、由比両町では同時に議会の合併推進決議も行なわれ、本年四月三日には、三町長の覚書調印となり、加えて、三万都市法案が三月十一日に公布施行となり、これに対する諸条件についても県条例の改正により、市制の施行、三町合併に必要な事務的問題も解決し六月六日の庵原地区総合開発計画の報告が行なわれるにおよんで、三町合併推進の気運が急速に高まったのであります。

二〇〇名の全体説明会も前後三回開催し、各階層の意見を求めるとともに、町内十三会場における部落説明会を開催し、全世帯の家に当る延一〇九八人の出席を得たのははじめ、区長会、農業団体、商工会、法人懇話会、自治教室などあらゆる説明会を通じて、合併推進の理由、利点、問題点を卒直に披瀝して町民の判断に訴え、住民PRを続けてまいりました。各説明会における意見は、公害問題、財政建設問題がその中心を占め、とくに①日軽金の弗化水素の公害対策をめぐり合併後の施策②合併後の財政計画と事業配分③議会の合併推進決議について論議が集中されました。説明会を通じ、合併の必要性について町民に十分な理解が得られず、かえって、公害問題、議会推進決議に対する感情問題などから反対運動が拡がり、一部部落では署名運動にまで発展、次第に全町に波及する状況となりました。

一方、区長会が主張する全町各戸に対するアンケート問題についても避けられず、賛否の激しい情勢の中で実施するならば、地方自治の本質ともいうべき議会性民主政治の理念にも反する極めて憂慮すべき事態となり、もし合併推進を強行するならば不測の事態も生ずる恐れありと判断し、七月二十

九日の声明書に表明どおり、明年四月一日を目標とする庵原三町の合併を時期尚早として断念することと決定しました。

三町合併について積極的に推進し、将来の庵原地区の発展を描いて研究を重ねられて来た方々に深く遺憾の意を表する次第です。

公害対策は、今や全世界人類に対する問題として発展しております。日軽金煙害対策も、先般三農事実行組合の統合問題が解決し、企業に対する施設改善も強力に進めております。財政問題についても、昨年度まで黒字団体でありましたが、本年度地方交付税の試算の結果、約四千八百万円の不足が見込まれ、交付団体となることと決定いたしました。

広域行政は、現在の地方財政の中では避けられない現状にあり、三町合併も地区発展につながる問題として将来ともに検討されることとしよう。関係各位の今日までの努力に対し深く感謝の意を表し今後の町政発展のため一層のご協力をお願いする次第です。

なお、先般、町内で発行された合併反対印刷物の中で、両町を刺戟した記事が掲載され、誤解を招いています。発行者も遺憾の意を表しておりますので、両町のご理解をいただき、友好関係をより進めていくよう願っております。

# 保険税引きあげ

## 医療費の24%

国民健康保険税は、全額が被保険者の病気等の診療費として使われています。

国保財政は、年々増加する医療給付のために、保険税を増し、一般会計の繰入金増額等によって運営してきました。(事業を経営するための経費は、すべて国・県補助金や一般会計繰入金でまかかいます)

では、なぜ医療費が増加するのかといえますと、国の経済成長にともなう社会構造の複雑化や、住民生活の向上により、医療技術も進み、この結果、病気の内容も変化し、成人病といわれる脳卒中・ガン・心臓病・高血圧症等がふえこれに交通事故傷害が増大してきたり、医療を受ける率が年々高くなってきたためです。

本年度、大幅に保険税の引きあげが必要になったことは、これらの自然増と、本年二月から保険診療費の改訂増を見込まなければならぬからです。

本年度、一人あたり年額一万五千五百円の医療費を見込んでおり

(これは一年間に平均四、三回医者にかかるものとしています) 保険税負担はこの医療費の24%で、医療機関の窓口で自己負担する30%を加えて54%となり、不足の46%は国や町で負担しています。

税負担は、軽減することが望ましいのですが、保険税のすべては皆さんの医療費に使われていることをご理解ください。引きあげ分は、二期分(七月納期)から精算します。

### 町民の声

#### ごみ収集日は確実に

わたくしは、新町四十九の一主婦ですが、日頃、ゴミの収集に努

力されている役場衛生課の職員皆さんに感謝しています。

ただ、この頃、指定された毎週火・金に収集車がきませんので困っています。なにか事情があらうかと思いますが、放送その他でお知らせくださり、事情によれば一週に一度でも結構ですから、その日だけは、雨が降っても必ず収集していただくようにしてください。

実は、今日は指定日だからとゴミ袋を門口に出しておいても収集されていきませんと、また家中へしまい、また次の指定日に出すというわずらわしさです。とい

いますのは、野犬が横行していますので、放置しておきますと、喰いちざり、散乱させ、どうしようもないからです。

野犬、犬の放し飼いが目立っており、非常に危険です。なんとか善処くださるようお願いいたします。(新町四十四 増田)

#### △回答▽

町民の声のご意見は、ごみ収集指定日にお伺いしなかったのとこととで、大変ご迷惑をおかけしたことをおわびします。

ご承知のように、町の「ごみ」収集は、別表の、町内の「ごみ」週二回このうち月一回は、ガラス類等を回集する計画になっております。

最近、高度経済成長と家庭生活水準の向上によって、公害等の環境衛生上の問題点が大きくとりあげられてきましたが、「ごみ」の問題も、家庭や第二次産業等から出る排棄量は、大変増加し不燃物等大型複雑化してきております

このようなことから、当初計画したところより、町営処理量も増え、この対策として、従業員も増え、この確保が仲々困難で

現在の職員で能率的な努力をして町民の皆さんに、ご迷惑をおかけしないようにしておりますが、ご意見のようなことも、でてくることもあり、従業員の不足に悩まながらも、できる限りの努力をして

いることをご理解戴き今後一層収集しやすようなご配慮等各家庭のご協力をお願いします。この際、「し尿」の問題についても申し上げると、これ又町営で収集する家庭が増え地域が拡がるのに直接従事する職員の補充や増員が全くできず、計画収集より電話で申込分さ充分に応じられないという事態に追いつかれております。

このように、明るく住みよい町づくりのために、最も必要な環境衛生上の問題は、職員の確保が、絶体的な問題点であり、更に「ごみ」等の処理施設も早急に計画推進しなければ、収集した終末処理

もできないという、町としても種々困難なことが多くあり、将来のことを考え対策等にも配慮していることも併せてご理解を戴きたいと思っております。

最後に、飼いはできないこととあり、野犬の増加には、適切な対策がなく困難な問題の一つですが、県保健所とも協力し、毎月の不用大回収、補獲等実施しているのですが簡単に解決されない状況です。

環境衛生は家庭へ直結し、ほんとうにじみな、緑の下の力持のような仕事に、重要性を自覚して働く職員の方苦もお察しく下さい。(衛生課環境係)

#### 日 程

収集日	ごみ収集巡回地区	ガラス瀬戸物回収
月曜日 木曜日	相生町、上町、舟山町、坂下、旭町、本通一、本通二、本通四、幸町	第一 月曜日
火曜日 金曜日	堺町、川坂、新町、新町四十九、宮町二、東町	第二 火曜日
水曜日 土曜日	木島、小山、松野全地区	第三 水曜日

# 国勢調査

## 十月一日実施

ことしの十月一日には、国勢調査が実施されます。

国勢調査は、国・都道府県、市町村の人口の大きさや男女、年齢職業などの構成を明らかにし、国はもちろんで、都道府県や市区町村の行政の基本となる資料を得るため行なわれるものです。

### 第一回調査は

#### 大正九年

わが国で最初に国勢調査が行なわれたのは、大正九年です。それから五十年前のことです。このときの調査は、国民全体がたいへんな熱の入れようで、成績は大成功でした。

以来ひきつづき五年ごとに行なわれてきましたが、その結果は世界各国のうちでも、非常に正確度が高いといわれています。

戦後、日本の国勢調査は、「統計法」という法律にもとづいて実施されていますが、そのなかで、「国勢調査は10年ごとに行ない、その中間の5年目には簡易な方法

による国勢調査を行なう」と規定しています。本年行なわれる昭和45年国勢調査は、この10年ごとに行なう規模の大きな調査にあたります。

### 国勢調査の目的

学校や住宅を建てたり、道路を建設したり、保健所や上下水道を整備したり、その他各種の行政を行なうためには、その地域の人口や世帯についての状況がわかっているなければ、適切な対策をたてることはできません。

また、国勢調査の結果は、たんに行政上の資料として利用されるばかりでなく、人口問題、経済問題やその他の学術研究の資料、あるいは会社などの経営上の資料としても、広く利用されています。

### 今回の調査の特色

近年、わが国では、経済の高度成長にともなう、産業構造の変動がいちじるしく、就業人口の不足や職業構成の変化を招いています。また、同時に、農村から都市への人口移動による過密・過疎の現象や核家族化による世帯の細分化など、社会的な面でも大きな変動がおこりつつあり、わが国の人口の大きさや構成あるいは世帯の

構成は、社会的、経済的、地域的に大きく変わってきています。

今回の国勢調査では、このような人口や世帯の変化の状況が早期にかつ詳細に明らかにされることとなります。

### 調査員

国勢調査の実施者は、内閣総理大臣ですが、実際にその事務を担当するのは総理府統計局で、調査全般の企画や集計の業務がここで行なわれます。

地方では、都道府県が、国勢調査の中継基地として、統計局と市町村との間の連絡にあたり、実地調査の中心になります。

各市町村は、前線基地として調査員を選び、その指導にあたります。

実際の調査活動に従事するのは内閣総理大臣によって任命された全国で約五七万人におよぶ国勢調査員です。

### 当町の調査員

(敬称略)

- 北松野地区
  - 小沢勝巳・蓮池道江・深沢好巳
- 松下寿男・望月志郎・石川文彦・白井陽子・神戸王清・高岡公男・池田留吉
- 南松野地区

- 小林延江・村野幸三・佐野孝治
- 木伏和子・天野明・村松衛・武下衛夫・清水晃・林勝
- 木島地区
  - 丸山博康・太田秋房・谷津倉辰
- 雄
- 岩測地区
  - 池谷熊夫・太田国弘・池谷勉夫
  - 小田善一・池田一郎・野沢晋・斎藤操・望月宣男・平岩康夫・中川久一・清泰二・飯島康男・斎藤資子
- 中之郷地区
  - 若月喜代子・斎藤博・斎藤勝彦
  - 望月貢・深沢好雄・村松文吾・杉浦証治・望月伸浩・池上嘉寿雄・池内秀夫・渡辺浩章・大木靖也

### 協力

調査員は、10月1日の一週間前から皆さんの自宅を訪問し、調査票と記入例を配付し、記入を依頼します。

皆さんの記入された調査票は、10月1日から5日までの間に、調査員が回収にまいります。統計調査のなかでもっとも大切な調査です。正確にご記入くださるようお願いいたします。

### 「川をきれいに」

最近のゴミはものすごいですね。しかし、だからといって、川に捨てるというのは、河川の災害上からも環境衛生上からも許されるものではありません。川へは決してゴミを捨てないでください。

七月十九日、小池川・有無瀬川血流川の美化運動が、地元皆さんの手で行なわれ、他河川も八月末まで連続して行なわれます。(役場建設課)



写真 有無瀬川を清掃する  
元地の皆さん

不快指数の高い一日だった。勤務を終え、「一風呂浴びてビールで暑気払いするか」と帰宅を急ぐ途上であった。国道の横断歩道で、中学生が三人、自動車の停止してくれるのを待っていた。数台のトラックや乗用車は、そのまま通過していったが、一台の大型トラック(車体に「鈴与」と記されていた)が停車して中学生を横断させた。安全に渡りきったその中学生三人は、帽子をとって運転者に向い丁寧な頭をさげた。

〈投書〉

人間を見た

当然のことといえばそれだけの話だが、わたくしは深く感動した。運転者の思いやり、中学生の感謝の心が、一本ピンと線を張って結び合ひ、そこに「人間」を見た思いだった。あの運転者は、今後歩行者への思いやりを忘れることはないだろう。そして三人の中学生の態度。気持のうえでは思っても、表現するには勇気がいるものだ。わたくしは一服の清涼剤を飲んだようなすがすがしさを感した。(木島 平田)

新体協・会長に

尾崎 初男氏



写真 尾崎新会長

町体育協会の六代目会長に尾崎初男氏が就任しました。

若月清会長の死去にともない、六月八日の常任総理事会で正式に決定されたもの。

尾崎新会長(44歳・尾崎印刷所社長・剣道七段)は、長い間、同会の剣道部長として活躍、各役員

を歴任、とくにここ二年間は、副会長として若月前会長を補佐、温厚な人柄と行動力には定評があり会員の尊敬をあつめています。尾崎新会長「その任ではないと思いましたが、せつかくのご推挙を受け、就任を決意しました。さいわい、体協内には立派な方々がおられますので、お力添えをいただいで、会長としての研修を積み、歴代会長後継者の重責を果たしたいと考えています」なお、新剣道部長に鈴木詔武氏が就任しました。

富士・鹿原地区

父親ソフト大会

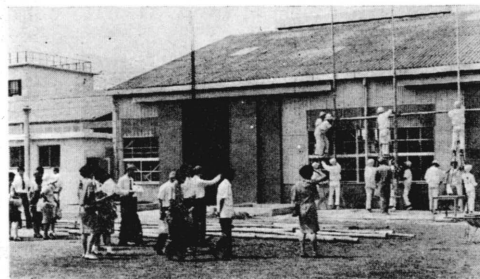
九月二十日

富士・庵原地区父親ソフトボール大会が、九月二十日午前八時、富士市立南中学校で開催されます。県民スポーツ普及を目標に、本年初の試み。富士市4、富士川・蒲原・由比三町は各1の計7チームが出場します。

富士川町代表決定戦

このため、八月二十九日(土)午後五時、二中グラウンドで、代表チームを決める試合が行なわれます。

写真 富士専修職業訓練所を見学する町民



県施設見学

町民三十二名

県広報課の主権による県施設見学、ことしは富士川町民が案内され、富士見学園(身心傷害児)田子浦港・富士専修職業訓練所を三十五人で見学。感銘を受けたが、田子浦港へドロに仰天。

給食運委会

役員改選

学校給食センター運営委員会が八月三日開かれ役員改選(左記)と一学期の経理状況その他を審議。平田センター所長から提案された給食状況については、年間計画どおり実施したにもかかわらず、物価高のため収支計算は実質的に29万円の赤字。九月以降さらに物価の値上りが考えられ、近隣市町村と同額になるのやむを得ないと討議。(百一三百円値上)

新役員(教委・学校PTA)

会長：杉山和作・副会長：望月勝年・監事：望月貞彦・二又川寿男・委員：山本一・土屋光春・松永義道・鈴木冬夫・常葉雅文・太田義雄・芦川しげ子・尾崎治子・佐野元子・久保田時子・原田良之輔・平田胤胤・橋本中川両栄養士

町・手をつなぐ親の会

44年度会計決算

町手をつなぐ親の会(金指恭三会長)は、五月十四日、同会44年度の会計決算を承認しました。歳出二二万六千九百四十六円、七三九円を翌年度へ繰越。

歳入面では、町内各他域から寄せられた賛助会費一三万円が骨。歳出では特殊学級助成、重症児見舞に大部分一九万円が支出されています。(45年会費来月号詳報)

## 〈夏の訪問記〉

## 団体運営に参考

## 創炎の活動

創炎(氏車 十主宰者)は、五月三十一日、傘下の劇団創炎と楽団炎の総力をあげ、祝町制七〇周年記念前夜祭として、第一回の自主公演を挙行、大きな成果をおさめて以後長期の休題(自己研修)にはいっていましたが、六月二十日より、以前どおり、毎週月・金の定例会を再開しました。

七月十八・十九日には西湖にキャンプを張り、揃いの紺のハッピを夏風になびかせて、創炎独自の自由時間(脳休み)を楽しんでいます。

## 劇団創炎の再編成

この間、劇団創炎の編成替えが行なわれ、班組織(四班)を発展的解消、脚本部・演出部・演技部舞台部と専門化し、この各部の代表者、委員七名で審議機関「炎卓会議」を構成、常に団員の意向に注意しつつ、主宰者や各構成委員からの提案を審議、創炎の方針を決定していきます。

決定事項は、定例会(町立図書

## 永久番号制度新設

館で毎週二回)席上、全団員に発表され、一糸乱れぬ活動を展開します。前の「班長会議」をより高度化したものです。

創炎に入団し、一定時期を過ぎますと、炎卓会議の認定と、全団員の承認を得て「創炎人」となり

その団員だけの番号が与えられます。これは、創炎の「創炎人は、年令・性別・学歴を問わず、人格的に平等である」とする原則から生じた発想で、ある創炎人が事情により退団しても、その番号は他団員に踏襲されることなく、永久にその創炎人の記念碑として残されるという仕組みになっています。各団員は自分の番号に責任をもち栄光ある番号にしようと努力することでしょう。

## 今後の日程

創炎は、劇団と楽団の充実に今後ともいっそう意を注ぐ構えですが

さらに舞踊団の新設も考えており注目されます。

第二回目の自主公演は、来年、蒲原文化センターで開催する模様ですが、さしあたって、十一月三日の町文化祭に上演する劇の演習日程が組まれています。

脚本部は、八月十五日までに創作原稿三本を演出部に提出、演出部は二十一日までその内容を検討修正加除を加えて後二十五日まで脚本を刷りあげ、全団員に配付炎卓会議で、文化祭上演劇の指揮をとる最高責任者を決め、キャスト、スタッフを決定して八月末に

発表。九月より本格的演習開始、十月半ばより特訓、十一月三日に上演します。

楽団炎は、同じく文化祭に出演するため、主宰者、主宰者代行と炎団員の計七名からなる楽団炎会議を通して上演曲目の決定、演習日程の作成を検討します。

## 国内・外巡演の夢

氏車主宰者語る

「創炎は、近々第三次の新人募集を行ないます。現在員は劇団27名、楽団5名ですが、近い将来、

## 水泳教室

## 二 中 プール

町体育協会(尾崎会長)は、「45年度町民水泳教室」を七月十九日(日)午前十時、二中プール開催しました。

参加者は一五人。

泳法指導・模範泳法・水上安全救助法指導・エキビジョン・記録測定等、なごやかなうちに規律正しく行なわれ、午後二時終了。たいへん好評を博しています。

町教育委員会の後援、ボーイスカウト富士川第3団の団員も手伝いして感謝されました。

## 個人事業税

第一期の納期

8月16日(8月31日)

五十名の定員とし、その後は、欠員を生じた場合のみ公募し、入団試験をパスした者をもって補充する方針であり、庵原郡下における演劇創造の強固な拠点としたいと考えている。(記者注・由比町・蒲原町から各一名入団している)

創炎は、礼儀・開拓魂・誠実を旗印に、正式には二年前に結団、演劇活動を通じて、社会に明るい炎をともし続ける団体であり、ひるがえっては、団員相互の強固な結合のなかで自己を磨き、社会の範たる人材養成を指向する道場でもあります。

若い諸君、能力の発揚を願いつつもその場をもたぬ諸君、劇団創炎あるいは楽団炎に入団し、創炎人として、生きる希望をもち給え、遠い彼方への羨望はやめよう。君の身近かに、未来への躍進を秘めたすばらしい団体の芽があるのだ。芽と言ったのは、創炎自身まだまだ幼なく、君たちの力を待っているからだ。

創炎は、将来、国内各所を巡演し、海外邦人を対象とする国外巡演にも夢もっています」



写真

水泳教室  
救助法の体習風景

### 商工会主催・親善ソフト大会

## 役場チーム

# 強豪を押さえ優勝

町商工会主催、富士川町協賛の第6回親善ソフトボール大会は、商工会法制10周年を記念して、八月二日午前八時、29チームが出場

一中・野田合板・富士川製紙の3グラウンドで盛大に挙行されました。29チームは、昨年の実績から二つのブロックに分けられ、Aブロック14、Bブロック15。

・Aブロックチーム

本通三四丁目・東庵青果市場・富士川製紙A・野田合板A・米喜バルブ・本州製紙A・イハラケミカル・国鉄富士川駅・本州製紙B・岩淵製紙・丸十鉄工所A・白石工業・野田合板B・富士川町役場の計14。

・Bブロックチーム

商工青年・三荒スルガコンクリート・坂下商店会・佐野製作所・富士川郵便局・岩淵製材所・日本アーバーエーカーA・同B・富士川農協・福島屋・ほいで缶詰・富士川製紙B・イハラケミカルB・中部電力・丸十鉄工所B 計15  
両ブロックの優勝チーム

A 優勝 役場チーム

B 優勝 佐野製作所

2位 佐野製作所

とくにAブロックの優勝は、町最強チームを意味するとあって関心が集中、役場チームが、二回戦で野田合板、準決勝で丸十鉄工所とそれぞれ強豪チームを撃破、決勝では本通三四チームを完封シヤトアウトするなど偉勲をたて、見事優勝しました。

齋藤久男商工会長の話「本大会は、ソフトボールを通じ、商工会員の親善融和と従業員の健康を願って毎年実施していますが、年々参加者がふえ、とくにことは、このように多数参加され、喜びにたえません。来年も盛大に挙行したいと思っています」

### 商工会の皆さんへ

## 活用しよう

### 公庫

国民金融公庫に新しい貸付制

写真 優勝した役場チーム



度ができました。

自己資金だけでなく、国民金融公庫を大いに活用して、お店の繁栄に役立ててください。

### ■流通近代化資金

この貸付は、卸小売業を営む方が、流通機構を合理化し、経営を近代化するための設備資金として融資するものです。

貸付金最高一千万円・利率は日歩二銭二厘四毛・貸付期間十年以内となっています。

セルフサービス店、ボランティアエーソンのモデル店、集配センターの必要な設備資金に限られます。

### ■生鮮食料品等小売近代化資金

この貸付は、生鮮食料品などの

小売等に限りません。設備の近代化、合理化のために必要な設備資金を融資します。

貸付金最高一千万円・利率日歩二銭二厘四毛・貸付期間十年以内  
青果、魚介類、米穀・酒類、乳類小売とパン・めん類・水産練製品・菓子の総合食料品小売業を営む方が対象になっています。

### 申込みから返済まで

①商工会へご相談のうえ申込書に必要事項を記入し提出②公庫職員による面接調査(毎月15日)③貸付：貸付決定は、申込み本人あて通知し、貸付金をお渡しします  
利息は後払い方式です④返済：商工会で返済組合をつくり、一括返済方式をとり、会員の便宜をはかっています。

(詳細お問い合わせは、町商工会 経営指導員 久松 勲へ)

### 衛生関係(ゴミ・し尿)

## 現業職員募集

■年令・資格不問 身体強健な方

■待遇は一般地方公務員と同等待遇

■給与、手当等については面接のうえ決定

■申込希望者は、役場衛生課まで履歴書持参

# 一畝二歩

女性上位という言葉は、精神の虚弱な男が、女をバカにするために用いる。女は、もつと強くなる方がよいのである。

七月初めの大新聞は、キャベツが大豊作で、農林省は、トラクタで踏みつぶすことを決めたと報じている。不合理な話だ。が、国としては合理的なことなのである。古く米の廃棄もそう。インドなどは個人の合理性で、国の合理性からいえば、インドの何十万の餓死は関係ないのである。

つまり、個人の合理性と、国や組織の合理性は、全然反対でありむしろ鋭く対立する。

個人としてみれば、夫や息子を兵隊に取られるのは不合理である子どもが公害で苦しむのは不合理である。しかし、国のためとか、地域の発展のためとかいう組織の合理性に男たちが弱いので、それがあった。

女がもつと強くなる必要がある。女性のもつ個人の合理性こそ、実は人類のための合理性だからである。

社会教育主事 池谷九万夫

# 青年団近況

## 体育祭八月二十三日

毎年八月に実施されている当町連合青年団の体育大会、ことしは八月二十三日(日)午前九時から一中校庭で開催します。

北松野・南松野・木島・岩淵・富士川・中之郷の六分団で若さを競います。

昨年の総合優勝は北松野分団でしたが、ことしはこの分団でしょう。

当町の「青春体育の祭典」―当日は日曜日、ぜひご観覧ください  
池田青年団長の話「ことしは、種目もリクレーションを主体にし

て、青年全体で楽しめる体育祭にしようと役員一同ではかっています。悩みは、年々、競技への参加者が減少していることで、これは青年団にはいつていようといまいと、町の青年でしたら参加できるわけですから、ふるって出場していただきたいと思えます」

バレーボール リーグ戦  
町連合青年団バレーボールサークル(古木悦雄責任者)は、リーグ戦開催を決定、七月二十日に開

会式を挙行了しました。同サークルは、スポーツを通して、青年の共同性をのぼせようと、毎月二回、夜七時から一小体育館で活動をしてきています。リーグ戦は、八月五日を皮切りに毎月5日と20日の試合日を経て来年三月に優勝チームが決定することになっていきます。

### 支部紹介

#### 北松野支部

富士川町連合青年団北松野支部(若野孝之支部長・24歳・自営)は、団員三十余名。

町連合青年団副団長に小池一義君を送っています。

毎年八月に盆踊りを主催するほか、文殊祭典、町民体育大会出場等、地域の文化・体育の向上に協

力しています。

支部長の脳みは女子青年の不足しかし、いろいろな課題をかかえながらも、毎年の町青年体育祭には何回かの団体優勝を記録し、団結力の強さは定評があります。

### キャンプ研修会

町連合青年団の今夏キャンプ研修会は、予定日の七月十一・十二日が雨天のため、同月二十五・二十六日、田貫湖で実施されました。湖畔のキャンプファイヤーに青年五十余人が集り、町から高岡助役、平田教育課長、池谷社会教育

主事をはじめOB多数を迎え、夜空高らかに青春の歌声。分宿した五張のテント内では、夜のふけるのも知らず「人生いかに生きるべきか」に花が咲く。

翌二十五日、三班に分かれて分科会。

- 一班 青年の責任と役割
  - 二班 世代の断層
  - 三班 希望と現実
- それぞれ右の主題について討議しました。

### やめよう!

#### 道路占用

八月一日から月末まで、全国一

斉に「道路を守る運動」が行なわれています。

道路は、町・県・国道等を問わず、皆の財産であり、美しく、正しく、安全に使われなければならない。

当町の場合、とくに左記二点に注意し、ご協力ください。

- ①道路を自動車、商品、資材、汚物の置場にするなど、不法に占用しない。
- ②道路に土砂やゴミ、タバコの吸殻等捨てない。

### 善意銀行寄託

6月8日〜7月3日

#### 寄託

幸和会(幸町老ク) 雑布二〇〇枚  
千鳥会(舟山老ク) 〃 六六枚  
木楽会(木島老ク) 一円五百円  
相寿会(相生老ク) 雑布一〇〇枚

45・5・20〜6・19

### 人の流れ

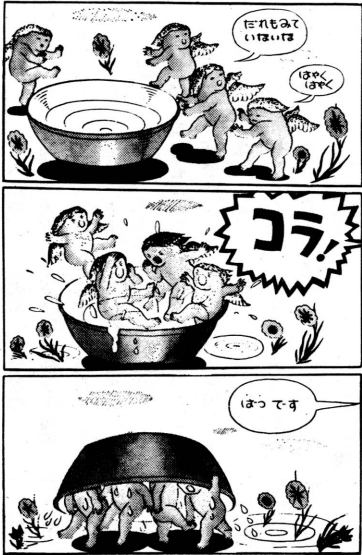
(敬称略)

#### 祝結婚

区名	新郎	新婦	旧姓
かきあな	佐野英三	礼子	飯田
四十九	大村仁	良子	沼下
木島	谷津倉良幸	早苗	塚本
四十九	河野光	みどり	平室
宮町	浦田晴好	勝子	恩田

### 星の子

太田利三



儘下町 栗原秀順 すみ江勝俣 上町 望月鈴子 東京塾  
 富士見町望月正 秀子 大塚 儘下町 河原千鶴子 富士宮市  
 本通四 中沢俊和 雅 井町 舟山町 望月幸子 〃  
 東町一 石原茂正 信子 東出 富士見町清水正子 富士市  
 祝 誕生 清水町 小池保子 蒲原町  
 区名 氏 名 保護者 続柄 儘下町 小川安江 富士市  
 新町 安本明子 博通 二女 富士見町久保田年子 由比町  
 舟山町 村野貴久 光顯 長男 坂下 丸山富子 富士市  
 旭町 長島千恵 芳郎 二女 堺町 斎藤幸子 蒲原町  
 幸町 若松慎哉 清司 長男 清水町 小池ユミ子 富士宮市  
 八幡町 山崎 匠 輝夫 長男 折 冥 福  
 儘下町 小川英利 一 三男 区名 氏 名 年令  
 東町二 天野由美 政美 二女 宮町 山田為作 七五  
 八幡町 稲葉克己 種夫 四男 川坂 若月直次郎 八二  
 四十九 大石日登美 元 長女 大北町 天野なか 九一  
 本通一 藤沼裕子 勇 長女 堺町 浦田桂吉 七五  
 新町 林 勝司 善次郎長男 八幡町 小林助次郎 七六  
 幸町 浦田秀樹 善弘 長男 儘下町 朝比奈みき 八四  
 旭町 鈴木暁子 基之 長女 八幡町 稲葉文太郎 五八  
 清水町 小池 功 茂雄 長男 宮町 恒次象六 四四  
 大北町 鈴木淳司 廣 長男 舟山町 太田信秋 六一  
 富士見町石川昭文 清 長男 幸町 柿平スミエ 五一  
 八幡町 佐竹弘子 正雄 二女  
 富士見町望月直樹 秀樹 長男  
 四十九 辻 大介 新晴 二男  
 八幡町 望月圭次 正晴 二男  
 幸町 柴田聡美 義雄 長女  
 東町一 望月あけみ 一光 二女  
 富士見町小林陽子 信一 長女  
 八幡町 丹羽 忍 和巳 二男  
 幸町 望月芳幸 光男 二男

転出(結婚)

区名 氏 名 転出先  
 四十九 佐野和子 静岡市

編集覚書

■民俗資料館(二小旧給食館)九  
 月一日開館。朗報がはいったのが  
 本号他紙面印刷済の段階、この欄  
 で紹介する次第。(9月号詳報)  
 ■秋。梁漁の季節。野趣の至上の  
 味わい。招待され、待遠しい。人  
 間を回復する一夜の川風。  
 81—1—1広報富士川 斎藤 博

富士川夜話 策

氏 車 十

「そう、江戸時代も終り頃でし  
 ような。この岩淵は、そりゃあえ  
 らい繁昌ぶりだったさうで、……  
 今じゃあ想像もつきませんがね。  
 したがって、甘いものに集まる蟻  
 のたとえ、無職渡世人もあつちこ  
 ちからやってくる、いろんな経  
 過の後、一つの集団にまとまった  
 んでしよう。そうなると、これは  
 えらい権力ですわ」

地元の甲州通いの舟人衆は、こ  
 こ到着かぬ毎日を迎えていた。権  
 のなぶり殺しにされた死骸が富士  
 川で見つかつてというもの、この  
 傾向にいっそう拍車をかけた。な  
 んとかしなればとまでは誰も思  
 うが、さて、家族や生活を考える  
 と簡単にには動けなかつた。  
 舟人衆は、激流富士川に竿さす  
 職業柄、腕も強く度胸もあつ  
 た。が、組をつくつて自分たちの  
 利益を守ろうという観念はなかつ  
 た。やくざ側は、この間隙を巧み  
 につけて勢力をのびし続けた。頭  
 分に世間ずれした男たちがいるか  
 ら、造作もないことだつた。賭場  
 のあがり各店から出させる手当  
 で、最近いっそうふてぶてしくな

っている。  
 銀は、こんなある日、同舟の舟  
 人六人を自分の家に集めた。銀は  
 気性のキリッとした三十男、妻子  
 四人で川岸に住んでいた。  
 「どうでえ、ぼちぼち落ち船の  
 時季だのう。梁を張るけえ」  
 話はそんな雑談から始まつた。  
 舟人衆は、気心の知れた間柄と  
 て、遠慮なく、出された猪の塩肉  
 を頬張り、濁酒を呑んだ。本題は  
 別にあるということ承知であり  
 銀の策を待つ姿勢である。——銀  
 の勘案は、ただただ「舟人のまと  
 まりをつくる。そのためには誇り

と利を与えねばならぬ」ことにあ  
 つた。  
 十日ほどたつた午後、舟人衆か  
 ら、やくざの頭分へ挑戦状が叩き  
 つけられた。暮六ツ、富士川岸へ  
 来いというものである。やくざ側  
 は、せせら笑つて総勢三十数名、  
 岸へ押し出した。  
 舟人衆十人ほどが棒や竿などを  
 持つて待ち構えていた。  
 「しやらくせえっ！」  
 白刃がきらめき、無法者達が雄  
 叫びをあげて殺到していった。  
 「野郎ども、逃げるぞ、それっ  
 やっつまえっ！」

舟人衆は、脇差に恐怖を感じた  
 か、棒や竿を捨て、川の中へざぶ  
 ざぶと逃げ入つた。  
 やくざ達は、さすがに川へはは  
 いれず、口々にののしり騒いだ。  
 そのとき、上手岸から彼等へこぶ  
 し大の投石が集中した。悲鳴をあ  
 げてうずくまる者がそこかしこに  
 出て大混乱に陥つた。数人の舟人  
 たちである。川の中の衆も呼応す  
 るように、用意してあつた石を投  
 げ始めた。  
 「退けえ！退けえ！」  
 やくざ達は夢中で退いた。と、  
 いつの間にか、前面に銀を先頭に  
 十人余りの舟人がいて、これは長  
 く太い竹竿で襲いかかつてきた。  
 うなりを生じた竿が足を払い、脇  
 差を吹飛ばせ、横ッ面を撲つた。  
 川のオトリ組や土手岸の石鉄砲  
 隊も、白兵戦に転じた。